

小平市長選挙 立候補予定者



小林洋子 プロフィール

小平生まれ小平育ち。小平九小、小平三中、小金井北高校卒業
 トラベルジャーナル旅行専門学校卒業、旅行会社に勤務。その後、TBSラジオ 954 キャスターとして現場からのレポートや交通情報、ラジオ CM を担当する。退職後は、子育て&祖母の介護をしながら農家として野菜を育てる。子ども四人をそだてながら、多くのお母さん達と話す中、お母さんたちの思いが『愚痴』で終わってしまっていると感じ、その声を市政に届けたいという思いから、小平市議会議員に立候補を決意。2011年市議会議員初当選。現在3期目。今回、市長選挙に立候補を決意するにあたり、小林正則市長の路線を引き継ぎ、引き続き実質的な借金はしない堅実な市政運営を目指す。

Q1 小平市の政策で注力すべき政策として、ご自分のお考えと近い、最も優先度の高いもの3つと、次に優先すべき3つで、以下の9つのカテゴリから選択ください。中でも力を入れる政策について 300文字以内で自由記述ください。

注力すべき政策



コロナ禍は女性や、高齢者、低所得者といった社会的弱者に大きな打撃を与え、格差を顕在化させたと OECD は指摘している。小平市においても、ウィズコロナ、アフターコロナ時代のリーダーとして、弱者に共感し寄り添いながらも、冷静に迅速に断固たる覚悟で臨む必要があります。その上でまずは社会福祉そして地域経済回復に取り組む必要があると考える。
 また自らが先頭に立って市民に情報発信する(顔の見える)女性市長を目指し、子育て支援・情報公開に取り組む。また、小平市においては16年間、小林正則市長のリーダーシップのもと、「公開、参加、協働、自治」のまちづくりが進められてきた。これまで以上に住民自治のまちづくりを進めるとともに真に「協働」を目指す。



磯山りょう プロフィール

1979年9月13日愛知県尾張旭市生まれの41歳。愛知県立旭野高校卒業、早稲田大学商学部中退。松本洋平衆議院議員秘書を経て市議会議員(3期)。39歳で小平市議会議長に就任(小平市議会史上最年少)。2020年度東京都議会議長会会長を務めた。放射線技師で地方公務員の父親の背中を見て、人の命を救う仕事に就きたいと夢見る。公立小・中・高等学校ではサッカー。大学時代の登山で、自然の雄大さと美しさを目の当たりにした一方、厳しさや過酷さを乗り越える体験も。秘書経験を通し『市民の命を救うのが医療だとすると、市民の心を救うのは政治の役割ではないか。』その思いに行き着き、市議会議員に。2世、3世でもない。地盤、看板、かばんなし。

注力すべき政策



自治体DXについては、力を入れて取り組んでまいります。デジタル技術の活用により、行政サービスへのアクセスを容易にいたします。また、災害時でも行政サービスが継続して提供できる体制の構築、いわゆるバーチャル小平市の実現を目指します。そして、リアル(現在の市役所など現実のサービス提供主体)とデジタル(バーチャル小平市)を掛け合わせるにより、誰もが気軽に、便利に、行政サービスを受けられる小平市を目指します。

10年後のまちづくりのビジョン

市の将来像は、これから小平で暮らしていこうとしている多くの市民にとって重要です。全国的な少子化や高齢化、人口減少もあり、各市町村は、魅力あるまちづくりが求められており、これから先の長いスパンでのビジョンが必要だと思います。
 また新型コロナウイルスをきっかけに、働き方や、人の往来、生活スタイル、居住など、人々の考え方にも変化があり、今までの想定していた未来図とは変わる部分もあると思います。

Q2 将来へのイメージと今から取り組むべき課題を考えて、10年後の小平をどのような街にしていきたいか、ご自身のビジョンをお聞かせください。また、そのビジョンに、これから市民の意見を組み込むための具体的な取り組みは、どのようなものをお考えしていますか？

小林洋子

やはりコロナウィルス感染症対策を抜きにしては考えられない。ウィズコロナの社会をどのように作り上げていくかが課題。ビジョンとしては、小平市が目指す12年後の将来像を「つながり、共に創るまち こだいら」と定めた小平市第四次長期総合計画(以下長総とする)を基本路線とする。



長総は市民ワークショップや、議会の議決も経たものであり、尊重すべきであるとする。長総は大きな方向性を示すものであるため、ウィズコロナの社会をどう乗り切るかは市長選後に作成される中期実行プランの中で取り組んでいく必要がある。その過程の中で、市民意見反映のためアンケートの実施やICTを活用した双方向の意見交換の場の設定などの仕組みづくりをする。

磯山りょう

まずはコロナ禍の市民生活と経済を守るために全力を尽くしてまいります。その後は、コロナ収束を目途に、田園都市である小平市の魅力である「みどり」と「くらしやすさ」を基本に据え、新たにテクノロジーを生かした施策や、次世代育成の観点から、子育て、教育に力を注ぐことで、だれもが住み続けたい街を目指す、プラチナ田園都市「こだいら」を実現してまいります。



特に、自治体DXを進めることにより、今まで以上に多くの市民意見を伺うための手法を充実させ、各施策の実施にあたって参考といたします。人口減少による衰退路線からのマインドチェンジを図り、教育、子育て支援に力を入れることにより、活力ある将来を目指してまいります。

以下の続きの質問の回答はWEBサイト「わたしたちのまちのつくり方」をご覧ください

- 新型コロナウイルス対策について、もしあなたが市長だったら
- 公民館の利用料の見直しについて
- 公共施設マネージメント(公共施設に再編)について
- 女性の活躍、男女共同参画センター“ひらく”について
- 小平市の都市農地の保全について
- 小平駅北口再開発について
- 都市計画道路の整備について



わたしたちのまちのつくり方は、2015年度の市民奨励学級「市民の思いが実現するまちづくりへ」を主宰したメンバーと興味をもった参加者が中心に2016年4月から活動しています。小平市の都市計画について周知を行い市民として考え多くの市民の賛同が得られるようなまちづくりを実現するための活動を行っています。2018年9月「わたしたちのまちの再開発」では小川駅西口再開発をテーマに市民参加イベントを実施して参加者の意見を市と組合に届けました。2017年市長選、都議選、2019年市議選では、立候補予定者向け公開アンケートを実施して回答率が高く、公平・客観的に評価されています。